



第16回自治体国際交流表彰（総務大臣賞） 受賞団体から学ぶ交流の取り組み

（一財）自治体国際化協会交流支援部交流親善課

クリアでは、自治体の国際交流活動のさらなる活性化を図り、地域の国際化に資することを目的として、総務省と共催で、創意と工夫に富んだ国際交流の取り組みを「総務大臣賞」として表彰し、全国に広く紹介しています。

第16回目となる2021年度は、有識者からなる審査委員会の審査を経て、下記の3団体が受賞しました。

【評価のポイント】

◆沖縄県

海外の101にも及ぶ県人会を拠点とした現地での双方向的国際交流、県人会相互のネットワークによる多極的国際交流は、国際交流一般に対する理念的かつ実際の模範形式である。分野も文化、経済交流ともに充実した内容を継続しており、移民の送り出し地と受け入れ地の手本となる関係を構築している。

◆公益財団法人加古川市国際交流協会

海外3都市との国際交流が継続的に行われ、一定の成果を挙げている。青少年の派遣・受入れを通じた交流を、国際交流協会を中心に30年近くも継続し、交流国の教育機関との連携、特に障がいを持った生徒の相互交流まで幅広く行い、世代を超え交流を継続・発展していける体制を整えている点が評価できる。

◆認定特定非営利活動法人岡山市日中友好協会

岡山市と洛陽市（中国）の姉妹都市交流事業の主体として、40年間活動を続け、植林活動では地域住民間の信頼関係の構築や環境問題解決にも寄与し、緑化事業（環境）、医療交流等、具体的な複数の重要な分野において、双方向での技術面・人材面での交流が行われている点が評価できる。

ここからは受賞団体の具体的な取り組みを紹介します。

こうした取り組みを参考として、さらに多くの活発な国際交流が生まれることを期待しています。

クリアでは、毎年度秋に当該表彰の募集を行っています。皆様からの積極的なご応募をお待ちしています！

世界の仲間たちと「ちむどんどん」

沖縄県【交流相手先：国内外の県人会、福建省（中国）】

「Hello !」 「¡Hola!」 「Boa tarde!」。

沖縄県では、5年に1度、「世界のウチナーンチュ大会」が開催され、期間中は島中に様々な言語が飛び交い、会場は熱気に包まれます。

本大会は、国内外の沖縄県系人が本県に一堂に集い、県民との交流等を通して、そのルーツやアイデンティティを確認し、次世代へ継承していくことを目的として1990年から開催されています。大会を通じて国内外の県人会等と強固な絆が受け継がれ、発展し続けており、前回大会では、海外29か国・地域から7,353人、国内603人が参加しました。そして、今年の10月には第7回大会が開催されます!! (<https://wuf2022.com/ja/>)



世界のウチナーンチュ大会

このように、世界中約42万人もの沖縄県系人が、移民開始から100年以上経過した今もなお、沖縄の文化や精神を大切に「ウチナーンチュ」としてのアイデンティティを有しています。また、琉球王国時代には「万国津梁（世界の架け橋）」の精神のもと、日本・中国・東南アジアと中継貿易を行い、平和的共存共栄の歴史を築いてきました。このような歴史的経緯を背景に、沖縄県では、「県民、県系人、沖縄に縁のある人々による多



元的なつながり」を「ウチナーネットワーク」と定義し、国内外の沖縄県人会や、琉球王国時代から交流の続く中国福建省と、沖縄のソフトパワーを活用した多面的な国際交流施策を展開しています。

冒頭の「世界のウチナーンチュ大会」をはじめ、「世界のウチナーンチュの日」の制定（毎年10月30日）、多言語による情報発信、相談窓口等を担う「ウチナーネットワークコンシェルジュ」の設置、海外県人会と協力した各種人材育成事業の実施、「ウチナー民間大使」の認証とその活動への助成等、様々な事業を実施しています。



ウチナージュニアスタディー事業

また、1997年に福建省と友好県省を締結し、公費留学生の相互受入れや、エイサー等の文化芸能交流等、官民様々なレベル、分野で交流を推進しています。

今後も、世界に開かれた交流と共生の島の実現に向けて、「ちむどんどん（心が高鳴る）」するような、ウチナーネットワークの発展に努めていきたいと思えます。

海外3都市との交流、青少年交流の実績

公益財団法人加古川市国際交流協会【交流相手先：マリンガ市（ブラジル）、オークランド市（ニュージーランド）、桂林市（中国）】

加古川市は、マリンガ市（ブラジル）、オークランド市（ニュージーランド）、桂林市（中国）の3都市と交流をしています。マリンガ市とは1973年に、ワイタケレ市（2012年の合併後はオークランド市）とは1992年に姉妹都市提携しました。また、1988年からは、加古川市民病院と桂林市第2人民医院の医学交流を開始し、その後、桂林市との行政・市民の交流へとつながりました。それぞれ公式訪問団や経済視察団、市民グループなどが相互に訪問し、密接な人的交流を積み重

ね、マリンガ市とは約50年、オークランド市（ワイタケレ市との交流を含む）とは約30年、桂林市とは30年以上の交流実績があります。

特徴ある取り組みとしては、若々しい感性に満ち溢れた青少年が交流体験を積み重ね、共に生きる地球社会の一員としての感性を磨き将来の国際人としての資質を高める取り組みが大切であるとの双方の考えに基づき、青少年交流を相互派遣の形で実施してきました。マリンガ市への青年海外派遣事業は1992年から計28回実施し、ホームステイや大学等教育機関や各種施設見学等の交流・体験プログラムに参加しています。特に現地日系人との交流は、日本人としての自分自身を再認識し、振り返る貴重な機会となっています。



加古川・マリンガ外国語センター前で出迎えを受ける加古川市青年海外派遣生

オークランド市（ワイタケレ市）とは、1991年から加古川市中学生海外派遣事業を計29回実施し、ホームステイや学校訪問を通じて、英語を使った現地中学生やホストファミリーとの交流、ニュージーランド文化の体験を重ねています。また、参加者の自信と生きる力を育むことを目的に、障がいを持つ中学生のオークランド市（ワイタケレ市）への派遣を計28回実施しています。保護者からは、「生涯を通しての大変貴重な体験で、その後の人生の中で大きな自信と自立につながっている」との意見が多くあり、大変特徴ある事業となっています。

さらに事業の参加者は、その後も当協会の様々な国際交流事業にボランティアとして参加する等しており、将来の進路選択に大いに生かされています。受入れについては、マリンガ市からの青年訪問団を計22回、オークランド市（ワイタケレ市）の学生訪問団を計16回受け入れ、市民との交流事業を実施しています。桂林市とも様々な事業を展開し、最近では新型コロナウイルス対策として、互いにマスク等の相互支援事業やコロナ克服を

願うことも書画作品展等の交流事業を行っています。

当協会は、本年3月で設立30周年を迎えており、今後も加古川市と協力して姉妹都市交流を推進するとともに、多文化共生事業の推進に努めていきます。



オークランド市で特別支援学校を訪問し交流する加古川市障がい者海外派遣生

「市民みんなで日中友好！」を实践し、新たな友好のプラットフォームを作ろう

認定特定非営利活動法人岡山市日中友好協会【交流相手先：洛陽市人民对外友好協会（中国）】

岡山市日中友好協会は、岡山市が洛陽市と友好都市を締結した1981年に設立されました。そのため、協会活動も友好都市との交流が大きく、2021年はコロナ禍でしたが、40周年の記念事業を実施することができました。友好都市締結は、1978年の日中平和友好条約締結という全国的な友好ムードの高まりが大きな背景だったと思います。当協会の設立もその大きな流れを背景とし、1950年代から活動をけん引してこられた先輩方が発起人となり、幅広い市民に呼びかけて設立されました。その設立過程から、当協会には、郷土出身で日中友好に貢献した内山完造氏や岡崎嘉平太氏等の足跡を示す貴重な資料が保存されています。

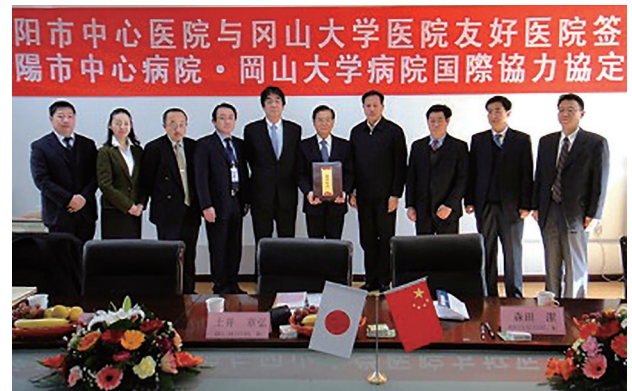
活動の中で特に重視してきたのは、岡山市との協働です。行政の役割と民間の役割を分担しながら、官民一体となって40年の友好都市交流活動を刻んできました。

また活動のスタンスとして、設立理念である「市民みんなで日中友好」を心がけています。ともすれば自画自賛になりがちな活動に対し、私たちは参加する団体や人々が中心になって活動を担い、その成果は参加団体が享受していくというスタイルを買ってきました。

具体的には、毎年4月に洛陽市で開催される洛陽牡丹

文化祭に参加する市民団の派遣、日中緑化協力活動、医療福祉交流、教育交流、民族音楽の演奏交流、仏教文化交流等多岐にわたっています。

医療先進県という岡山の特徴を生かして協会内に医療関係者による医療交流促進委員会を設立しました。この委員会が核となり県下の病院に呼び掛け、視察団の派遣や医療訪日団の受入れ等相互訪問を実施し、その後も医師や看護師の相互研修につなぎ、持続した交流が行えるように工夫しています。



洛陽市中心医院と岡山大学病院の国際協力協定調印式

さらに、洛陽市北部の黄河沿いでは緑化協力活動を展開しています。2003年以来14年間継続し、環境改善に協力してきました。当初は募金で苗木購入資金を作り、市民訪問団の時に現地の方と一緒に植樹ボランティア作業をしていました。その後、日中緑化交流基金の助成を得ることができ、規模も大きく展開し、継続事業として実施できるようになりました。

今後は、日中合作によるリハビリテーションセンターへの協力等の医療交流を進化させるとともに、古都洛陽の歴史を踏まえた令和の遣唐使派遣等、未来の日中友好を担う青少年交流と育成に力を入れていきたいと思っています。



洛陽市の地元住民との緑化活動で市民交流を促進